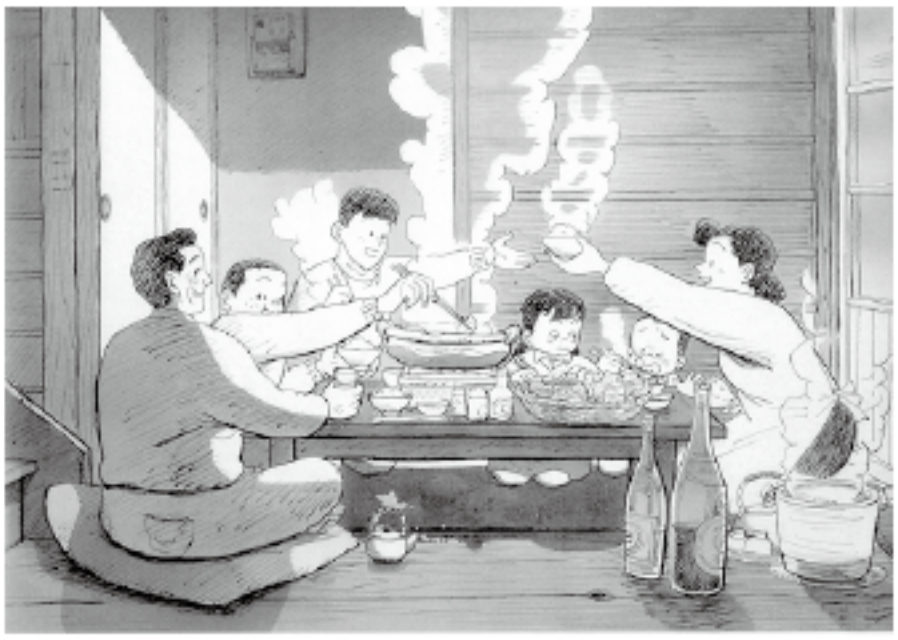
東成区の昭和 やぶにらみ日記

絵＆文　柳 たかを

本作「やぶにらみ日記」を制作したのは、インターネット接続が WIFI ではなくモデム回線の時代。その頃の私は「昭和」をテーマにした某企業広告イラストを 10 年間続け、日本家屋・家族・路地・つどい等のシーンをモノトーンのマンガ風イラストに描きつづった経験をどうやって次の作品にバトンタッチさせるか思案していました。

ハウスメーカーの企業広告イラストとして最初に採用された作品、50 代だった父親が自嘲するように自分自身をそう呼んでいた「貧乏絵描き」の言葉を、何かでイライラした 9 歳の僕が父に向かって「お父ちゃんのビンボウ絵描き」と言ったら、いきなり頬っぺたをぶたれ、ビックリしたのと後悔の気持ちで階段の隅でワンワン泣きをした記憶をもとにしたものでした。



「なべ料理」

最初にハウスメーカー側から提示された広告コピーは「思いやりの伝わる家」、しかしコピーの狙いをソツなく説明しようとしたサンプル作品は、「何か物足りない」と描き直しを求められ返却されることの繰り返し、ついに行き詰まって追い詰められた気持ちでいた時、ふと空想シーンを描くのをやめ、自分の体験した忘れられないシーンを、それが多少陰気であってもごまかさず描けば見る人に届くのではと思った。

それでボツになったら力不足、縁がなかったと諦めがつくと開き直り取り組んだのです。
描き上げた作品の提出後まもなく、全国紙新聞の 15 段全面広告として私の描いた暗い物置でベソをかいて座り込む男の子のイラストを見たのでした。

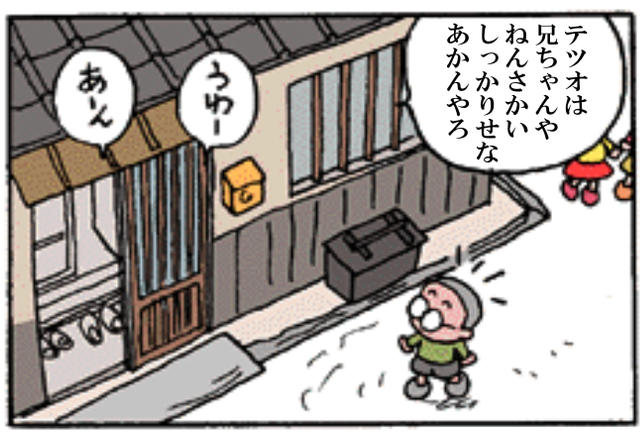
やがて家族の後ろ姿・お正月・帰省シーンなど、トーンのそろった作品が増えて行き、「家族の懐かしいシーン」を描く世界こそ自分が繰り返し見たいイメージだと創作の芯をつかんだように思いました。
この「やぶにらみ日記」は、私が自分の記憶を思い出したくて私的に始めた Web 連載です。とちゅう 6 回集中連載させて頂きました昭和の子供遊び「ホイラン」（本誌 26 号～ 31 号）も同じ時期に描いたものです。
本誌には懐かしい自作を振り返る機会をいただき有難い思いでいます。

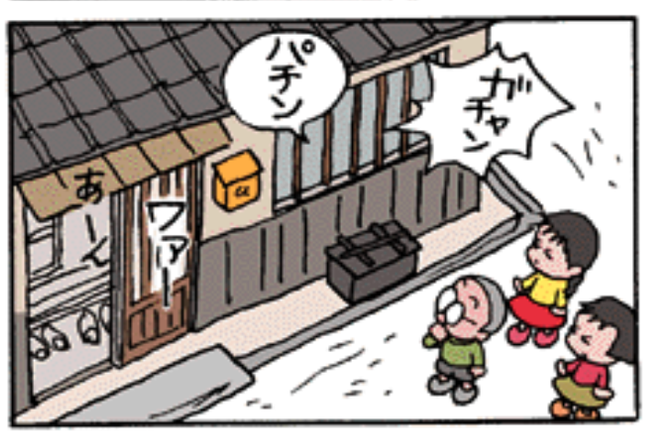
「昼寝」

やぶにらみ日記

東成区の昭和(45)

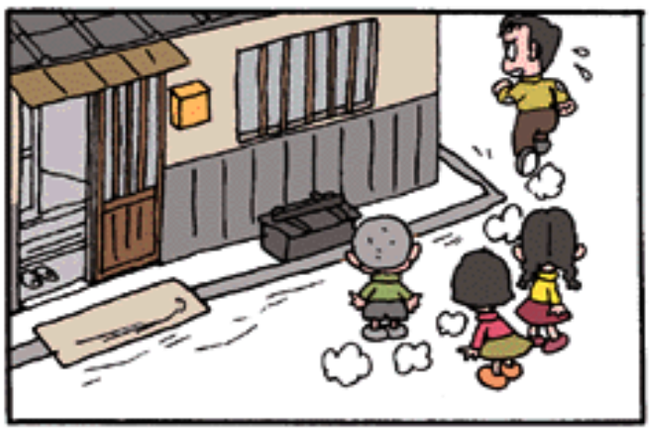
東成区の昭和(46)

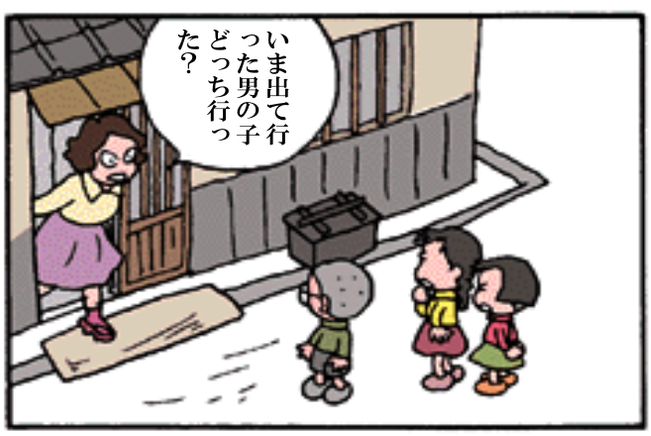


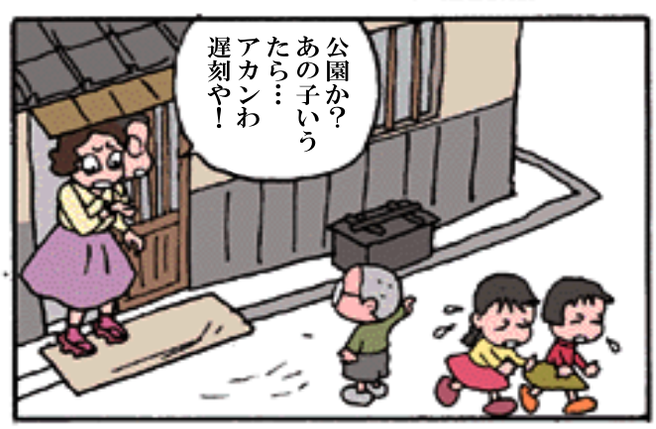


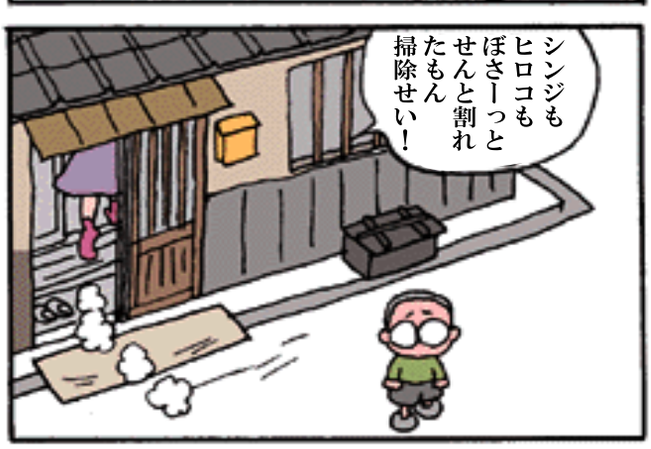
やぶにらみ日記

東成区の昭和(47)







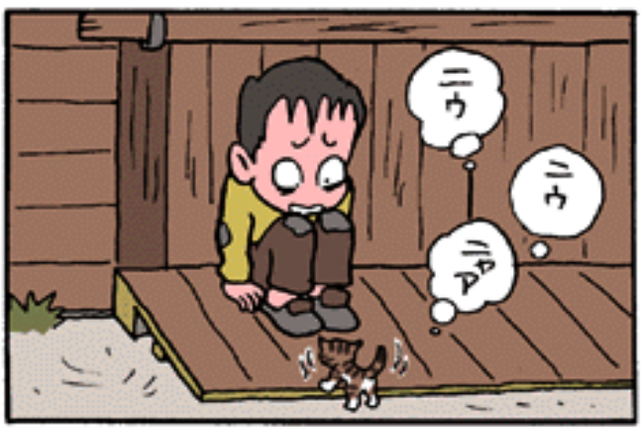


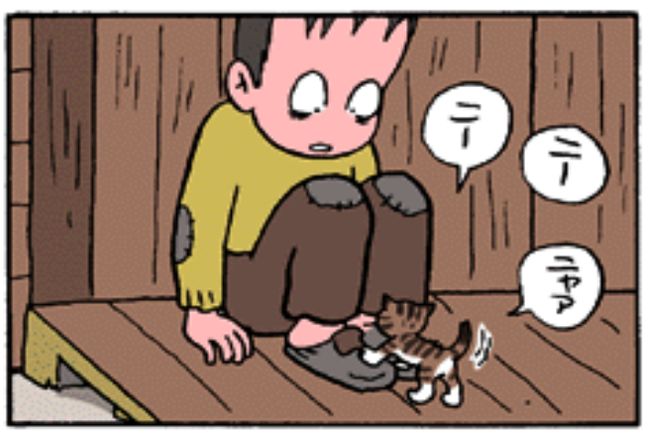
やぶにらみ日記

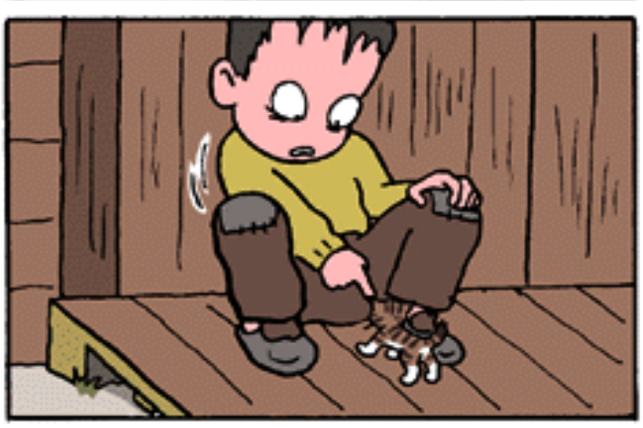
東成区の昭和(48)

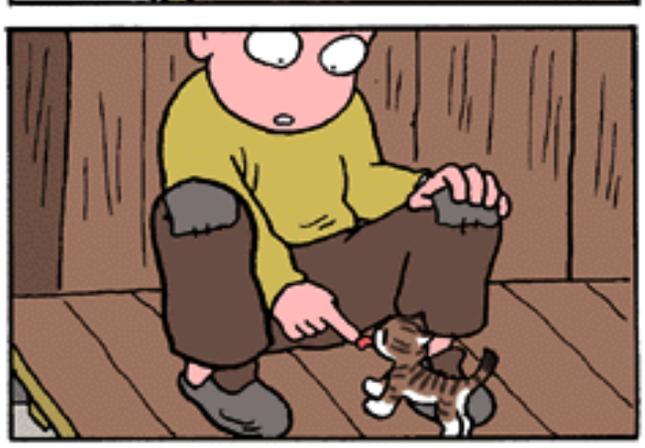
やぶにらみ日記

東成区の昭和(49)



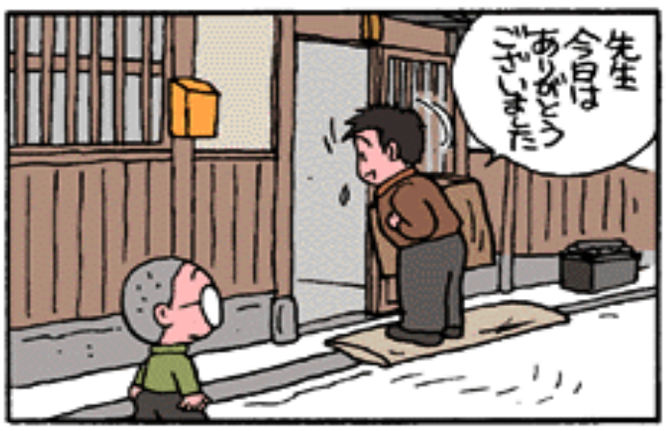






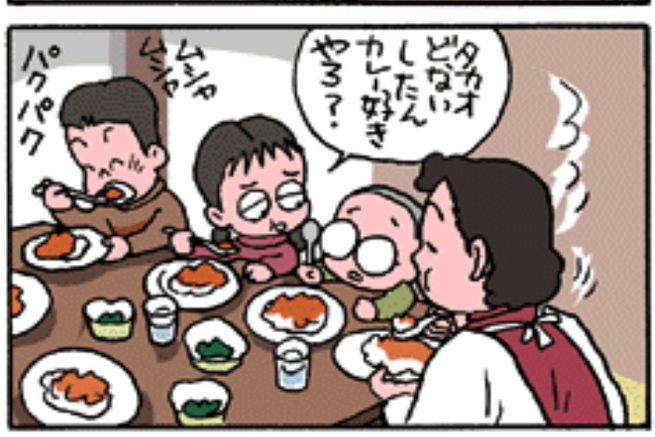
やぶにらみ日記

東成区の昭和(50)



やぶにらみ日記

東成区の昭和(51)



やぶにらみ日記

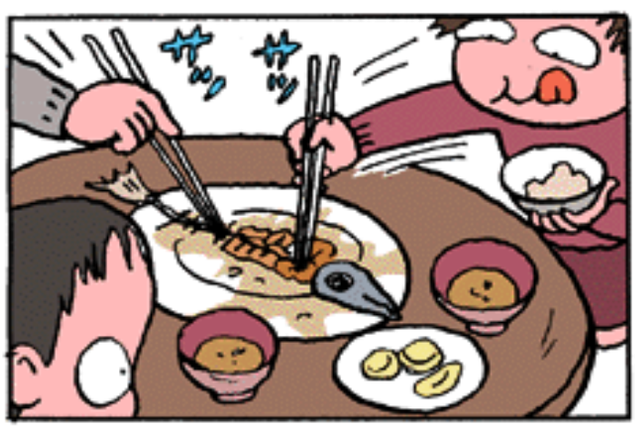
東成区の昭和(52)

やぶにらみ日記

東成区の昭和(53)

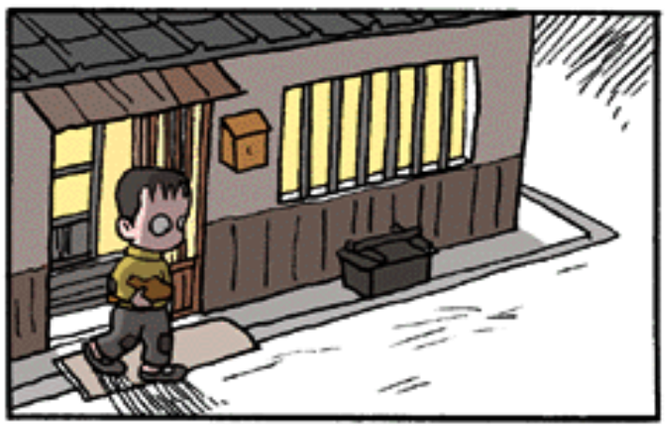
やぶにらみ日記

東成区の昭和(54)



やぶにらみ日記

東成区の昭和(55)

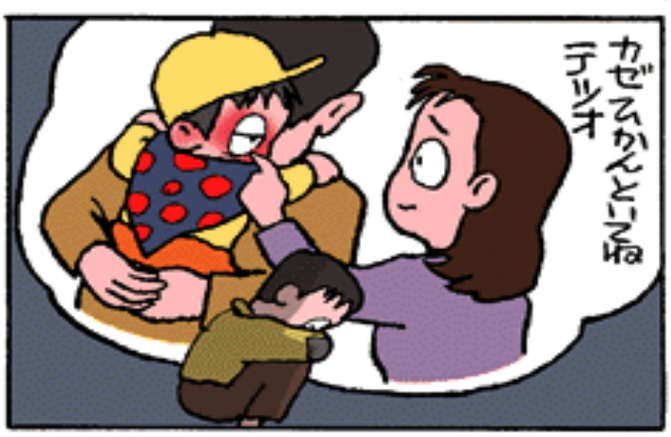


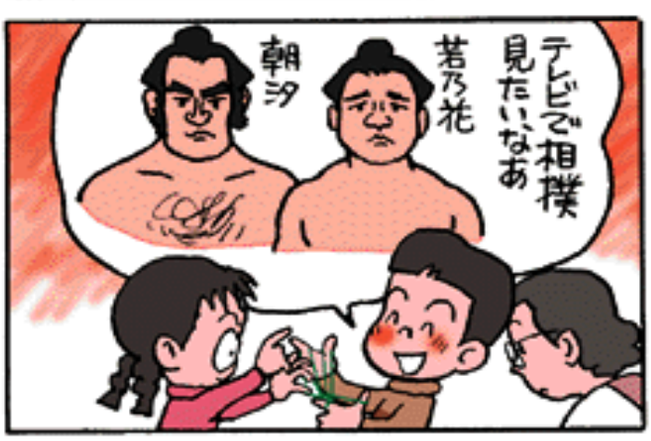
やぶにらみ日記

東成区の昭和(56)

やぶにらみ日記

東成区の昭和(57)



やぶにらみ日記

東成区の昭和(58)